



特集 認知症の人が笑顔で暮らせるまち東淀川

身近な人のこと

あれっ?と思ったら早めにご相談ください



東淀川区では、認知症サポート医と医療・福祉の専門職で構成される認知症専門の支援チーム「ほほえみオレンジチーム」が、ご本人・ご家族のサポートを行っています。住み慣れた地域で笑顔で暮らし続けるために、「ほほえみオレンジチーム」があなたの生活を応援します!

あれっ?

- 同じことを何度も言う
- いつも探し物をしている
- 約束を忘れる
- テレビを見なくなった
- 慣れた道で迷う
- 物事に興味がなくなった

支援の流れ

相談受付

ご本人・ご家族・地域の方など
お電話または来所にて
ご相談ください

TEL 7730-0002

月～土 9:00～17:00(菅原4-4-37)
東淀川区在宅サービスセンター「ほほえみ」内

訪問

チーム員がご自宅を
訪問します

支援方針について
チーム内で協議します

初期集中支援の実施

(概ね最長6ヶ月)
医療機関の受診や調整の
お手伝いをします
介護サービスなど
利用のための
お手伝いをします

「ほほえみオレンジチーム」の皆さんにお話を伺いました!

ほほえみオレンジチームの役割
～実際の支援から～

ご近所の気づきから支援につながるまで

「最近よく探し物をしていて、近所を不安げに歩いているので心配」と近隣の方がAさんのご家族に連絡。その後、ご家族からオレンジチームに相談が入りました。

相談後の支援の流れ



鑑別診断後、ご本人、ご家族の意向により家でのくらしを続けるために、介護保険申請やサービス利用の手続きを地域包括支援センターと連携してサポート。

栄養状態改善のため訪問介護サービス、適度な運動の機会としてデイサービスの利用を開始。近隣の方の見守りのもと、住み慣れた場所で安定した生活を送ってられます。

支援をとおして

専門医を受診し、鑑別診断を受ける時は皆さんの不安が大きく、説明の聞き漏れ、聞き忘れが起きることがあります。オレンジチームが同行することで、一緒に聞いてもらえてよかったと安心の声をいただくことが多いです。

今回は、地域の方の気づきが早期受診・診断につながり、認知症になってもAさんの意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けるお手伝いができました。



住民の皆さんへのメッセージをお願いします。

チーム員医師より

オレンジチームは認知症に特化した相談機関です。医療と介護の専門職と認知症サポート医が適切な医療や介護サービスに繋がります。また、医師会や地域包括支援センターをはじめ、地域の諸機関とも連携しています。どうぞ安心してご相談ください。認知症の問題は決して他人事ではない時代。身近な誰かの異変に早めに気づくためにも、我が事として捉えて興味を持っていただきたい。そのことが大切な人を助けるための第一歩だと思っています。



辻 正純 医師

チーム員より

認知症への理解を深め、まずは病気への誤った認識をなくしてほしいと願っています。また、認知症の人をささえる地域ぐるみの取り組みが早期診断・治療につながります。

「あれっ」と思った時は「まだ大丈夫かな」と思わず、まずはご相談ください。診断の結果認知症であれば、住み慣れた地域での暮らしを関係機関や地域の方と一緒にお手伝いします。

認知症の人にやさしい
まちづくりをめざして



東淀川区長
西山 忠邦

大阪市では、認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる社会をめざしており、東淀川区は、市内でもいち早く、平成26年度から「認知症初期集中支援事業」を実施してきました。認知症は、誰もがなる可能性のある病気で、予防や早期受診・治療が大切です。早期に対応することで進行を遅らせることができ、家族や地域の助け合いで住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らし続けることができます。

コロナ禍ではありますが、若い方を対象としたキッズサポーター養成講座や地域での徘徊模擬訓練、居場所づくりとして、プランター農園や認知症カフェ(オレンジドーナツ)などの取り組みも今後の充実をめざしています。

区民の皆さんもぜひ、認知症について知り、ご自身の健康管理に役立てたり、認知症の方やその家族をあたたく見守る応援者になっていただきたいと思ひます。お困りごとに気づかれましたら、ぜひ、ほほえみオレンジチームや地域包括支援センターなど、身近な相談機関にご相談ください。



認知症初期集中支援についての
チラシ・パンフレットを配布しています
在宅サービスセンター「ほほえみ」でもお渡しします

☎ 高齢・障がい 2階27番 ☎ 4809-9857

広告